

新しい型のブロック昆布礁について

増殖部

現在ブロックのコンブ礁として円筒型（高

さ、径共六〇cm）のものが利用されています。

このブロックは元来砂地のコンブ礁化を目的に開発されたものですが、最近では岩礁や砂利地帯でも広く利用され、その効果は各水試から毎年報告されています。一方漁業者の間

でもその良否について色々な意見があります。が、これらの声の中から主として批判的な意見をまとめると、大略次のようになります。

(1) コンブの着生は良好で、投入後二、三年の間はむしろ着き過ぎる例が多い。

(2) 半面、コンブの生長や突入りは天然礁よ

り劣り、採取がおくれる。

(3) コンブの着生部分はブロックの上部だけで、無駄な部分が多すぎる。

(4) コンブがブロックの側面や窓にからまつて、傷がついたり時には切れて良い製品にならない。

(5) 採取する時、アンカーがブロックにひつかかる。

次に転石、岩礁地帯などで、自然石と比較した調査例では、事業量とコンブ着生量、また雑藻による耐久度などから考えると、ブロックは自然石と効果はほぼ同じであり、この

ような場所には、むしろ自然石の投入をすすめた方が良いと言う報告もみられます。しかし実際には自然石が入手難のところも多く、またブロック投入希望が多い現状では、新しい型の自然石に代るブロックを考え出す必要があるわけです。

* * *

ブロックに対する色々な批判や調査の結果に基づいて、私たちは円筒型に代る新しいブロックの基礎調査を四〇年度から始めました。新しい型のブロックの目標は次の通りです。

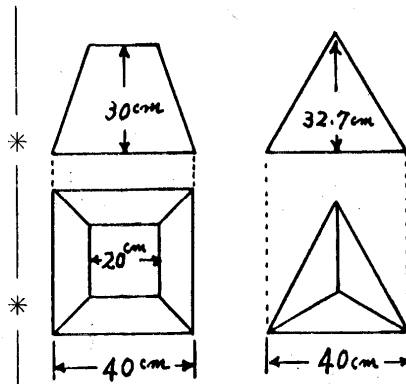
(1) 円筒型ブロックは砂地で一応効果をあげているものとし、新しいブロックは岩礁、砂利地帯に投入するものであること。

(2) ブロックの大きさは、約五〇〜六〇kgで自然石と同じぐらいの大きさとする。

(3) 数種の基本型ブロックを投入して、着生コンブの数量、生長、品質、ブロックによる魚場形成状態、耐久度などを比較する。

このように新しいブロックは自然石の適地に対して効果のあげられるものと云う考え方に なります。

四〇年度は基本的な型として、台型と三角錐型(図参照)の二つを選び、十一月十三日に各二〇〇個づつを浜中町霧多布の湯沸岬にある岩盤地帯、水深二〜三mのナガコンブ地帯に投入しました。



投入ブロックに対する調査は今までに三回(四一年二月、七月、十月)行ないました。

その結果を要約してみますと次の通りです。

- (1) コンブはいづれも着生しているが、台型の方が三角型よりも量が多い傾向がある。
- (2) 台型ブロックの着生本数はほぼ平均して

常に大きい。

- (3) 着生コンブの生長は、ほとんど同じ地点のブロックでも、台型の方が順調であり、三角型の方が悪い。

- (4) 着生部分はブロックの上部と側面のうちどれかの一〜二面に限られ、残りの面にはほとんど着生しない。

このようにしてみると、コンブの着生量や生長はブロックの型によつて差があるように推測され、また着生様式は円筒型ブロックと

基本的には同じであつて、型や大きさによる違いはあまりないように考えられます。しかし、現状ではまだ結論を出すことはできませんので、今年も同じブロックの外に、従来の円筒型の半分の高さ(三〇cm)のものや、鉄製ブロックも投入して、数年間にわたり調査を継続する予定です。なおこの調査は漁場改良造成事業効果調査のうち、国の指定する特別調査として実施しているものです。